

厳しい酪農情勢を生き抜くために

～若手酪農生産者グループの活動支援～

1 活動のねらい

市原市・袖ヶ浦市の酪農経営体9戸で構成されている市原市ホルスタイン改良同志会は、飼養管理技術の向上と会員同士の親睦を図るため勉強会の開催を中心に活動をしています。飼料や資材費の高騰が続き、酪農情勢は厳しさを増していますが、農業事務所では、関係機関と連携し、会員同士の情報交換を通じて、生産技術や経営が向上することを目的に活動を支援しました。

2 課題の背景

市原市ホルスタイン改良同志会は酪農後継者を中心とした自主学習組織であり、30代から50代と年代に幅はありますが、経営移譲がされ経営者となっているか飼養管理を主体的に行っている人がほとんどです。定例的に勉強会を開催しながら、飼養管理について知識の習得に励み、会員同士が自分の農場の飼養管理について頻りに情報交換していました。こうした頻りにコミュニケーションにより、自然災害等のトラブルが発生した際にもお互いに助け合うことができるため、会員は会の活動を大切にしてきました。しかし、令和2年から続く新型コロナウイルスの影響で2年間は大きな活動は出来ておらず、互いの農場の状況もわからなくなっていました。そこで、全会員の農場でのバーンミーティングから活動を再開することにしました。

3 普及活動の経過・結果

(1) バーンミーティングの開催

バーンミーティングとは、会議室等でなく、実際に現場を見ながら参加者で問題点を指摘しあい、検討していく手法です。主に、ここ2年間の新たな取組や導入した機械などに焦点を当て、その効果や自身の経営に置き換えた場合、導入することができるかなどを話し合いました。

会員の一人が導入した搾乳ユニット自動搬送装置は、重い搾乳ユニットの自動搬送や、ミルカーの自動離脱機能により繋ぎ牛舎における作業を省力化が期待できる装置です。市原市はつなぎ牛舎の経営体が多く、労働力不足の懸念もある中だったので、他会員の関心を集めました。

また近年、夏季の平均気温が上昇していることで、乳牛の乳量低下や疾病の併発、繁殖障害など問題となっ



写真1 搾乳ユニット自動搬送装置の見学

ており、暑熱対策に対する意見交換も盛んに行われました。特に、牛舎内の気温への会員の関心は高く、扇風機の大きさや風量、ミストの有無について検討されました。

(2) ミニ勉強会の開催

各回のバーンミーティング終了後には、テーマを設定し、飼料メーカーや資材メーカー、家畜診療所の獣医師を講師に勉強会が行われました。

テーマはバーンミーティングの会場となっている会員と相談して設定しました。6月、7月は、夏季に向けてサシバエ対策や獣医師による繁殖成績の検討会を行うなど飼養管理技術の向上を中心に、8月からは、近年の飼料費高騰を受けて、市内で生産された稲 WCS や食品粕などを利用したエコフィードについて品質や利用方法などを検討しました。



写真2 エコフィードについての勉強会

(3) 牛群改良の取組

市原市ホルスタイン改良同志会では、将来的な乳量や繁殖成績、疾病リスク等の牛の遺伝的能力を高精度に予測することができるゲノム解析について、令和2年度から勉強会を開催していました。実際にゲノム解析を行っている会員からは、「子牛の解析結果が成牛になった後の成績と概ね合致していることから数値をもとに、牛群改良を行っている」との意見があり、市原市ホルスタイン改良同志会として、ゲノム解析に取り組むこととなりました。今後は、成牛になった時の成績を期待する子牛を2頭ずつ解析し、成績検討会を行う予定です。

4 今後の課題

近年の資材や飼料費の高騰は、酪農経営を大きく圧迫しています。稲 WCS などの地域内で生産される粗飼料や、エコフィードを利用した飼料費の低減への取組は、今後も検討していかなくてはなりません。しかし、経営の安定のためには、同時に生産量の向上にも取り組む必要があります。今後は、牛群改良を進めながら、安価な飼料の利用によって生産量の低下が起こらないよう、給与技術の改善や飼料の安定的な品質と供給の支援を行っていきます。

5 担当者 市原グループ 山下 瀬里奈

6 協力機関 市原市、千葉県農業共済組合中央家畜診療所、
全国酪農業協同組合連合会